

事務事業事後評価シート[令和1年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	博物館	■担当係	博物館
■評価事業名称	博物館協議会		
■事業開始年度			
■評価事業コード	418200 - 030	■会計区分	一般会計
■総合計画での位置づけ	■政策	02 生きる力を育み、文化が躍動するまちづくり	
	■基本施策	02 社会教育の充実	
	■施策	03 社会教育機能の充実	
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)	■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に定めはあるが任意の自治事務		
■法令等の名称	博物館法第20条 北上市立博物館条例第6条		
■関連計画の名称			
■事業の目的と概要	地域に親しまれる博物館運営を目指すために必要な委員の意見を聞き、調査研究、企画展示、教育普及活動等の充実を図る。博物館の運営に対し意見を受ける。		

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	令和1年度事業計画	令和1年度事業量実績
01	博物館協議会委員設置事業	市民	委員数10人、会議開催回数2回。	委員数9人、会議回数1回(コロナウィルス対策により1回は中止)。

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	備考
直接事業費	116	134	170	131	
人件費	676	763	1,390	2,134	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	792	897	1,560	2,265	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	28年度	29年度	30年度	1年度	指標の説明
01	会議1回当たりコスト	89千円	48.8千円	780千円	35.3千円	
02	会議開催回数	2回	2回	2回	1回	
03	事業に反映した割合	60				事業に反映した件数 ÷ 提案件数 × 100

事務事業事後評価シート[令和1年度事業]

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

前半は無事に開催し多くの助言を得ることができたが、後半はコロナにより中止となった。従来の課題であった博物館展示に関する専門委員を加えることができた(岩手大学博物館課程教授)

問題点・課題等

歴史分野等の学術に関する委員が不在である。コロナ対策をした協議会を開催する。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響・貢献度

- 事業の廃止により重大な問題が発生する
- 事業の廃止により何らかの問題が発生する
- 事業の廃止による問題は想定されない

4. 市民生活・企業活動への貢献度

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持に一定程度貢献している
- 市民生活・企業活動の維持への貢献度は低い

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

1名欠員があるので、次回の改選で歴史系の委員を人選して加える。コロナ対策をした密にならない方法での協議会開催。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了